

# MLデータセット生成システム: データ出力

全登録データのスプレッドシート化 → NIMS Standard SpreadSheet 最小構成要素はセル:

\* 項目名

牖 \* \* 単位

\* 金 1サンプル 1ライン、ただし、セル内の(値の)木構造も可能。

リポジトリから同項目のデータを回収、項目名/型/単位を統一

辞書記述された項目間関係を自動解析、項目互換を行う

\* 項目間関係の記述形式も同一のスプレッドシート形式

無無 アドバンス機能として指定項目に対する変換可能項目(辞書定義を利用、 アナライザの開発が必要)データを変換出力

● 何をInput/Outputにするかはユーザーの決定

# MLデータセット生成システム:当初のサービス構想

#### 機能:

- 路錄履歴
- 空録者署名
- スプレッドツート生成

#### システム構成:

- gitlab
- \_ td
- Mathematica
- Jupyterhub

当初はMathematicaをメイン、tqを補助的に利用する方針。 ユーザー環境にgitとgpgがあればよい。UIはJupyterhub。

## 現状の方針

# MLデータセット生成システム: 現状の方針

tqをメイン、ソルバー (Mathematica等) はユーザー環境を利用

データ形式定義、データ、辞書をすべて同一形式(言語)で記述

スプレッドシート生成のみ

解析クラスタ中心

● 署名や信頼性確保は他のサブシステムが行う

最小限のコンバーター、辞書アナライザの開発が必要



#### td: 爾茨

データ形式定義+データ+辞書(木)を記述可能であること = 知識構造(グラフ)を記述可能であること データ構造 辞書構造

#### td: 众法

< tq >:: # <: num :> \$# <: num :> \$ <: alp :> \$ < name > [<: num :>] (< tq >,...)

e.g. #1\$#2\$Op\$Name(#2Name2[2]) #1\$#2\$Op\$Name@#2Name2[2]@(Length,Weight)(#2Name2[2]@(Length,Vame2[2])

### td: 頂参照

被参照部バインド表現	\$#1f	(\$#1@#1,#1)	\$#1f@#1g(#1g)	#1f(\$#1g@#1f)
被参照部		#1	<b>#</b> 1g	#1f
参照部	\$#1	\$#1	\$#1	\$#1
表現	\$#1f	(\$#1,#1)	\$#1f(#1g)	#1f(\$#1g)

## tq: データバインド

データバインド表現	[1]@(L) [2]@(L,W) [2]([2]@(L,W,22,3)) H1[2](H2[2]@(L,W,22,3))
データ	L,W,22,3,21,5 L,W,22,3,21,5 L,W,22,3,21,5 L,W,22,3,21,5
表現	[1] [2] [2]([2]) H1[2](H2[2])

### td: **セルの**構成

```
e.g. (Weight, Quantity(68,kg)) (Comment, String(This is a comment Inne.)) (Comment, String(A","B","C)) (No., Numeric(1))
```

(項目名,型(値,単位))

# td: 頃参照とデータバインドを使ったスプレッドシートの構成

```
(Length, Quantity(1,mm)), (Weight, Quantity(2,kg))), (Length, Quantity(322,mm)), (Weight, Quantity(4,kg))), (Length, Quantity(5,mm)), (Weight, Quantity(68,kg)))
                                                                                                                  出力形式定義: $PI$($#1,Quantity($#4,$#2))
データ: Length, Weight, mm, kg, 1, 2, 322, 4, 5, 68
                                                          入力形式定義: (#1[2],#2[2],[3](#4[2]))
```

## tq: トリプル表現

O(Cod)	00	) (無 ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (	〇 ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (
S(Dom)	ω u	ന ഗ	S / / / / / / / / / / / / /
P(Arrow)	۵ م	L Q.	// 無 他 ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( ( (
	P(S,O)	()(#1H))/(S(\$#1P)))	S(O) (')

## tq: トリプルと頃参照を使ったグラフ表現

\$G\$((<オブジェクトリスト>),(<トリプルリスト>))

表現	グラフ構造	隣接行列
((#1A,#2B,#3C), (f(\$#1,\$#2), g(\$#2,\$#3)))	A B B	,,2,3,,,[:f:6],7,8,,,, ,,,,,,,[6->:\$#1:7->2],,,,, ,,,,,,,,[6->:\$#2:8->3],,,, ,,,3,4,,,,,[:g:9],10,11, ,,,,,,,,,,,[9->:\$#2:10->3],,
((#1A,#2B,#3C), ((\$#1,\$#2), (\$#1,\$#3), (\$#2,\$#1), (\$#2,\$#3), (\$#3,\$#1), (\$#3,\$#1), (\$#3,\$#1),		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,

### td:辞書表現

```
グラフ: $G$((<オブジェクトリスト>),(<トリプルリスト>))
↓そのまま!! ただし、辞書トリプルのSとOには木構造を許す
辞書: $D$((<オブジェクトリスト>),(<トリプルリスト>))
```

```
e.g.
((#1A,#2B,#3C),(f($#1,$#2),$X$near($#2,$#3),
$def$(<u>f</u>,((a,b),$eq$(a,b))),...))
```

(#1A,#2B,#3C),(f(\$#1,\$#2),\$X\$near(\$#2,\$#3) \$def\$(<u>f</u>,((a,b),\$eq\$(a,\$pow\$(b,2)))),...))

### トリプル 被定義項 定義

### td: 辞書表現(圈)

e.g.  $f: A \rightarrow B :: \$arrow\$(f(A),B)$   $g: B \rightarrow C :: \$arrow\$(g(B),C)$   $g \circ f: A \rightarrow C :: \$arrow\$(g(f(A)),C)$ 

## 開発状況: 実装済み部分

・ 木構造パーサー
 ・ グラフ構造パーサー(ラベルによる項参照)
 ・ データバインド
 ・ データリストの内積化
 ・ アンパック(木構造の平坦化)
 ・ クオーティング
 ・ しテラライズ(オペレーション回避)